

岩手県宮古市の田老第三小の子どもたちの手で行われた記念植樹



「震災忘れぬ」緑のバトン

東日本大震災の津波で失われた緑の再生を応援しようと、都内の小学校などで育てた広葉樹の苗木が28日、岩手県宮古市の小学校に植樹された。震災を忘れず、被災者を思う心を込めた、緑のバトンだ。

岩手県産の苗木を関東などの家庭や学校で育て、被災地に戻して植える「グリーンウェイブ2012」（国土緑化推進機構、森林文

化協会、朝日新聞社主催）の活動。都内では北区立東十条、江東区立第二亀戸の両小学校と都立小石川中等教育学校が、学校として参加している。今回が初の植樹となった。

植樹先は宮古市立田老第三小学校（児童12人）。津波の直撃は免れたが、被災した地元6世帯が校庭の仮設住宅で暮らす。復興に向



苗木を育てている北区立東十条小の子どもたち＝同小学校

都内で育てた苗木→宮古で植樹

けた希望のシンボルにと、5都県の7校からイタヤカエデ各1本が贈られた。

学習発表会に合わせた記念植樹に7校の担当教諭らも参加。田老三小の子どもたちと一緒に正門脇に植えた。代表の5年、畠山陽光君は「大きくなって、立派な木になってくれたらいいと思います」とあいさつした。

都内各校の子どもたちは苗木とともに「被災地のことを絶対に忘れないという気持ちを苗木と一緒に届けたい」「復興を見守る木になっほしい」などのメッセージも寄せた。各校はそれぞれ6種類10本の苗木を預かっていた。残る9本は来年以降、順次被災地に植える予定だ。